



被災地における 外部人材の受入と「翻訳」の役割

金沢大学 能登里山里海未来創造センター
未来創造部門 研究員

野村 俊介



学生時代 「ボランティア」 として地域活動
復興・災害救援に触れる

東北



能登

発災1カ月後から支援者として通う
約1年前に移住



珠洲市在住

珠洲市、能登町中心に

- 大学と地域協働のプロジェクト
- 外部人材の受入
- **地域の担い手と研究の両立**

より良い復興には多様な主体の相互理解・協働が不可欠
しかし、地域では外部リソースが継続的に活かされにくい



両者への理解・信頼をもつ「適切につなぐ人 (橋渡し役)」が鍵



より良い復興には多様な主体の相互理解・協働が不可欠
しかし、地域では外部リソースが継続的に活かされにくい



両者への理解・信頼をもつ「適切につなぐ人(橋渡し役)」が鍵

金沢大学

想いをもちた学生
学術的知見・技術
俯瞰的視点
ネットワーク
信用・中立性・説明力

能登

地域住民
自然・風土
文化・祭り
人のつながり

自分の役割



能登の未来を地域と共に創る